

[学会情報]

日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会 第18回研究集会に参加して

川崎 訓昭

京都大学

Reports on 18<sup>th</sup> Meeting of Western Division of ASEV Japan Chapter

Noriaki KAWASAKI

KYOTO University, department of Agriculture

日時：2017年8月20日（日）

場所：京都大学農学部 総合館 E217

1. 小山竜宇氏（Koyama Wines Limited と Mountford Estate の Winemaker/Managing Director）『ニュージーランド・ワイン及びコヤマ ワインズとマウントフォード・エステートの現状と展望』
2. 川崎訓昭氏（京都大学）『スイス及び米国ワシントン州におけるワインツーリズムに関する一考察』

報告 1 小山竜宇氏（Koyama Wines Limited: Mountford Estate Winemaker/Managing Director）

ニュージーランドでワイナリー経営を行っている小山竜宇氏から、ニュージーランドでのブドウ栽培やワイン研究の概要、について報告がなされた。

ニュージーランドでのブドウ栽培においては、特にピノ・ノワールの栽培が盛んであり、世界第三位の生産量（世界生産量の5%）を占めている。ニュージーランドにおけるワインの最大の産地はワイパラ地区であり、現在 66 のワイナリーが存在しており、主要な品種はソービニョンブラン、リースリング、ピノ・ノワールである。

鳥害が深刻な問題となっており、ブドウ樹全体にネットをかけた栽培が一般的となっている。また、ニュージーランドのワイナリーは都市近郊にあることもあり、ツーリズムと連携したワインツーリズムがワイナリーの経営戦略の基本となっていることが紹介された。

小山氏の「Koyama Wines」もこのワイパラ地区に

2009年に設立され、現在の年間生産量は1500ケース、主要な品種はピノ・ノワールとリースリングである。

Mountford Estate は1991年に設立されたワイナリーであり、1995年に初ビンテージを出荷したのち、2017年に Koyama Wines が取得し、現在総面積 29.9ha である。今後の経営展開として、製品ラインアップを揃えるために、スパークリングワインの製造に取り組んでいることが紹介された。

報告 2 川崎訓昭氏（京都大学）

Oenovi International および ASEV 68<sup>th</sup> National Conference に参加した川崎訓昭氏から、開催国であるスイスおよび米国ワシントン州のワインツーリズムに関する報告がなされた。

スイスでは白ワインにはシャスラー、赤ワインにはギャメイが多く使用され、ヴァレー州、ヴォー州、ジュネーブ州が主要な産地となっており、特にジュネーブ州のワイナリーはジュネーブ近郊に位置しているため、消費者との交流を重視したワインツーリズムが行われていることが事例も交えて介された。

米国ワシントン州では、シアトル北東部に位置するヤキマ・ヴァレーやコロンビア・ヴァレーで栽培されるカベルネ・ソーヴィニョンとメルローを中心にワイン製造が行われている。また、多くのワイナリーがシアトルの対岸にあるベルビュー近郊にテイスティングルームを有しており、シアトル（グローバル企業の本社が多く存在する）を訪れる多くの観光客を対象としたワインツーリズムを行っていることが紹介された。